

2014年9月22日

トヨタ車体、インドネシアで地元住民とともにマングローブ植樹式を開催

トヨタ車体株式会社(本社:愛知県刈谷市 取締役社長:岩瀬 隆広)は、2014年9月20日(土)、インドネシア共和国における子会社3社(スギティークリエーティブス*1、トヨタオートボデーケーカイエクストゥレーション*2、レジンプラッキングテクノロジー*3)とともに、西ジャワ州ブカシ県の「トヨタ車体グループの森」において、第4回植樹式を開催しました。

植樹式には、ムアラ・ゲンボン郡知事をはじめとするインドネシア行政関係者、地元住民や小中高生ならびに当社の市川忍副社長執行役員、当社現地法人スタッフなど約200人が参加しました。植樹式では、市川忍副社長執行役員が「環境保全は重要な課題であり、環境保全なくして持続的成長はできないという考えのもと、豊かなマングローブの林づくりを進めています。この活動が日本とインドネシアの友好関係の一助となることを願っています。」と挨拶をしました。

トヨタ車体は、2006年から本社のある愛知県をはじめ、工場や子会社が所在する三重県、鹿児島県で森林整備を推進してきました。海外においても2006年から5年間、インドネシア スカブミ県の焼畑により森林破壊が著しい約120haの土地に約11万本のマホガニーやアボカドなどの苗木を植え、熱帯雨林再生をめざす活動を推進してきました。

今回のマングローブの苗木植樹は、公益社団法人 日本環境教育フォーラムのサポートを受けながら、環境保全と、地元住民の暮らしを豊かにすることを目的に2011年から5年計画で進めているもので、約100ha(ナゴヤドーム約20個分)の海岸沿いに約100万本の苗木を植樹します。現在は合計で約60万本、約87haの植樹を終え、今年はさらに約20万本の苗木を植える計画です。

また、地元住民に環境教育も実施し、地元住民が自立して森林を守り育てる基盤づくりも行っています。

トヨタ車体グループは、社会から信頼される企業をめざし、これからも植樹活動を通じて地球環境保全と地元住民との絆づくりに取り組んでいきます。



記念植樹の様子



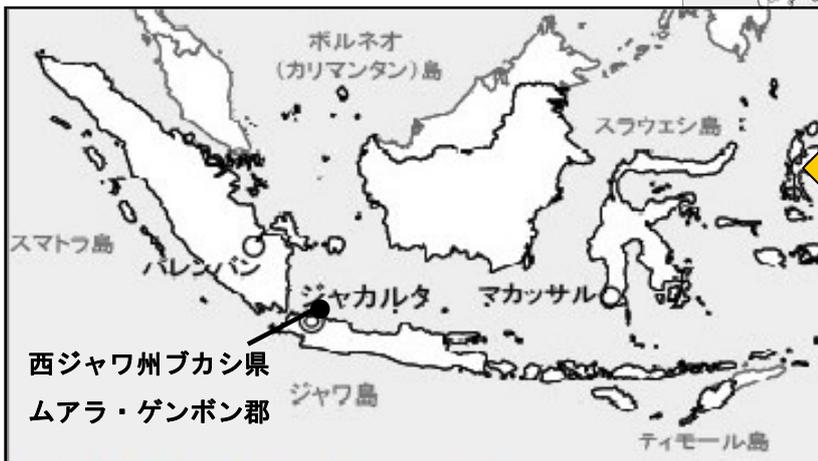
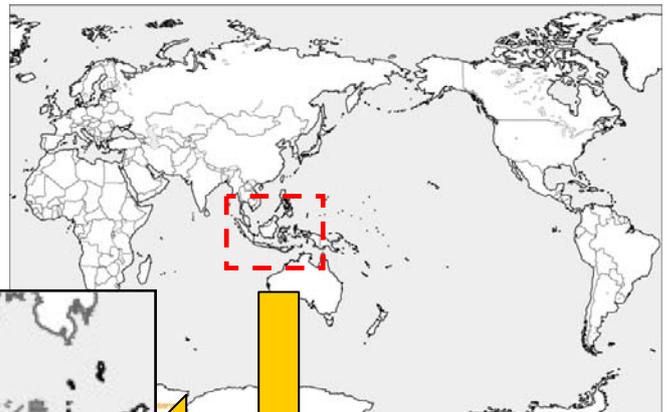
トヨタ車体グループの森に
植樹されたマングローブ



地元住民のみなさんと記念撮影

【植林活動場所】

・インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県



(*1) PT. Sugity Creatives

所在地 : インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県MM2100 工業団地内

生産品目 : 自動車「NAV1」および樹脂部品

(*2) PT. Toyota Auto Body-Tokai Extrusion

所在地 : インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県MM2100 工業団地内

生産品目 : ゴムおよび樹脂の押出し成形部品

(*3) PT. Resin Plating Technology

所在地 : インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県MM2100 工業団地内

生産品目 : 自動車用樹脂めっき部品および樹脂部品